

いざ、選挙へ

概要

政治に関してどのよう
か。我々学生はまだ社会に
出ていない人が多いため、
政治や選挙に対する関心は
低いように思われる。特に
本学は経営学部があるもの
の、他の学部は理系の学部
となっており、政治に触れ
る機会が少ない。だが、公
職選挙法の改正により昨年
から18歳以上に選挙権が認
められ、今月10日には改正
後初めての参議院選挙が行
われる。選挙の場にてより
良い判断をくだすため、政
治に対する知識や関心を持
たなくてはならない状況と
なった。

果たして我々学生は、政
治や選挙に対してどのよう
に向き合っていくべきなの
だろうか。自民党衆議院議
員であり、教育に力を入れ
ている小林史明氏。学生と
共に平和安全法制に反対し
ている初鹿明博氏。彼らが
学生に期待することは何
か。2氏の意見をまとめた。

小林氏は語る

自由民主党

自由民主党は一般的に「保
守政党」として知られてい
る。保守と聞くと何も変え
ようとしていない政党を想像す
るかもしれない。だが本来
の保守というのは意味が違
う。自民党は過去に積み上
げてきたもので、良いもの
は残し、時代に合わないもの
は積極的に変え進化して
いく、実は最もチャレンジ
ングな政党である。

政策・目標

今回の18歳以上の選挙
権取得により、有権者が
240万人程度増える。党
としては大学での授業や座
談会を通じて、新しい有
権者の政治意識を高めてい
る。だが、大学への訪問は
困難なことが多いので関心
があればぜひ議員を訪ねて



▲自民党 小林史明氏

ほしい。また、ホームペー
ジのリニューアルも対策の
1つだ。従来はパソコン用
のページのみであったがス
マートフォンの縦型画面で
も見やすく、政策もインフォ
グラフィックなど分かりや
すい表現にした。イ
ンターネットメデイ
アへの対応を進めた
2009年ごろはP
Cからのアクセスが
中心だったが、ここ数
年はスマートフォン
が中心になった。こ
のように変化には敏
感に対応していく。こうい
つた意見は議員からのアイデ
アも多い。多くの議員は毎

初鹿氏は語る

民進党

民進党にどんなイメージ
があるか。おそらく、野
党、合併、新しい党などと
答えるだろう。しかし、民
進党に期待できるものはそ
れだけではない。自由、共
生、未来への責任。この3
つの理念に含むものは、す
べて期待してよい。例えば、
大学には多くの留学生がい
る。君たちは彼らを疎外す
ることなく、受け入れ、助
け合っていることだろう。

しかし、不思議なことに国
同士となると時に衝突を起
こす。個人の間ではできて
いたことが外交になるとで
きなくなる。それは、まだ
私たちの内にアジア諸国を
見下し、欧米を重んじる姿
勢があるからかもしれない。
大切なのは多様性を
受け入れることだ。共生を



▲民進党 初鹿明博氏

目指すことだ。これが民進
党の掲げる理念であり、そ
こから世界は開ける。
私自身、民進党は
これからの党である
と考えている。若い
議員を積極的に役員
として起用し、彼ら
に活躍の機会を与え
る。できたばかりの
党だからこそ、私た
ちが作っていくかねば
ならない。例えるなら、ベ
ンチャー企業を立ち上げる
ようなものだ。いや、倒産
しかけの企業を買収して、
再建しようというところだ
ろう。それゆえに慣習にと
らわれず、新しいことに取

民進党

も政治に関心を向ける時間
を持つことはできるだろ
う。ニュースを見るだけで
もいい。少し考え、耳を傾
ければ、それだけでも興味
を持つきっかけとなる。選
挙に向かう足取りも変わる

若いうちは、いろいろな
ことにチャレンジすべき
ことだ。口で言うのは簡単で
あるが、結局やらないと始ま
りません。やりたいことは後
先考えずにやってみよう。

これから すべきこと

私たち政治家はその典型か
もしれない。必ずしも当選
するわけではない。努力が
報われるわけではない。私
自身も1度落選している。
政党を離れ、全財産を投じ
て出馬した選挙で落選し
た。でも、助けてくれる人
は必ず現れる。君たちにも
きつと現れる。だからこそ
信じて挑戦してほしい。

学生に向けて

情報化の進んでいる今、
学生を持つ感覚で世の中を
見て、変えたいことや違和
感を持つことに對して発言
し、行動することが重要だ。
ものの見方は世代によつて
異なるが、だからこそ、こ
れからの国を担う世代の感
覚が必要だ。実際、自民党
は現在参議院を含めて三
十四パーセントを1、2回生
議員が占めている。彼らの
活躍により、時代に即した
感覚を得て、より活気ある
政党へと進化していくだ
ろう。

自民党

週末に地元でさまざまな立
場の人に話を聞く。その目
的は1つ、国民が何に困り
何を望んでいるのかを知る
こと。そこから地域や全国
に通じる課題を得て、地域
の課題であれば、それに対
する見通しを正確に
その地域のの人に伝え、
納得してもらおう。ま
た、スケールが変わ
るだけで全国に通じ
る課題であれば、国
會議員の間で問題意
識を共有し、包括的
な対策を打ち出すこ
とで、国民が安心できる生
活環境を整えることができ
る。このようにして、党の
目標の1つでもある「自主
自立」への一歩を進めるこ
とができる。

また、ルールは変えられ
る、ということも知ってほ
しい。もちろん従うべきル
ールもあるが、どうしても合
わないものもある。それな
らば変えればよい。躊躇す
らう。

NPO法人

ドットジェイピー

政治には堅いイメージが
あるかもしれない。しかし
昨今ニュースで取り上げら
れるように、選挙権が18歳
以上に引き下げられたこと
により我々学生の関心は必
然的に政治や選挙へと向
いていくだろう。今回、若
者を対象に政治に触れる機
会を与える活動を行っている
NPO法人ドットジェイ
ピー（茨城支部）の大井健
史さんに話を聞いた。

ち、身を粉にして活動され
ている議員もいることを知
り、彼らが取り上げられ
れば政治への関心がより得
られるのではないかと語
つた。また、関心のない学生
は政治や選挙について知ら
ないだけなので、大学での
授業や広告などで知ること
が重要だということ。

選挙に関して、今回18歳
以上の選挙権取得という大
きな変更点があったが、若
者の投票が見込まれず、む
しろ全体の投票率の低迷
や、そもそも20歳未満の有
権者の判断能力が本当にあ
るのか、といった不安が挙
げられる。一方で、これか
らの未来を創る若者からの
声を教育や福祉へ届けやす
くなる。もちろん声を上げ
ることも重要であるが、声
を上げる機会がないことも
あり、その機会をドット
ジェイピーが与えることが
できればよいと大井さんは
語った。

ドットジェイピーは春
季・夏季にそれぞれ政策立
案コンテストを開催して
おり、30年後の未来の政策を
立案し発表することをテ
マに掲げている。特に、予
算案まで決めるこのような
イベントはほかにない。イ
ンターシップに参加する
ことでインプットし、その
集大成としてイベントでの
アウトプットをすることが
重要であるため、ぜひ両方
とも参加してほしい。また
動画サイトでも一部配信さ
れているので目にしてみる
とよいだろう。

最後に「どんな切り口で
もよいが、弊社のインタ
ーシップへ参加し政治の生
の現場を見てほしい。そし
て目を見て耳で聞き、感じ
たことを身近な人に伝える
輪を大事にし、その輪が広
がることで政治への関心が
広まってほしい」と大井さ
んは熱く語ってくれた。

WE WANT YOU

新聞会 新入部員募集中!

活動場所：神楽坂・葛飾キャンパス
連絡先：Twitter @tuspress HP <http://tuspress.jp> Email tuspress@gmail.com